



～コラムコーナー～

ジェンダーとSDGsについて





SDGs（持続可能な開発目標）では、前文に、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女児のエンパワーメントを達成することを旨とする」という部分があり、ジェンダー平等の実現は、SDGs全体の目的であることがわかる。「ジェンダー平等」とは、性別に関わらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味している。

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」では、次のターゲットが示されている。



- ① あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- ② 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- ③ 未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
- ④ 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。
- ⑤ 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。
- ⑥ 国際人口・開発会議（ICPD）の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。

次の目標においても、ジェンダー平等が関係している。

	目標	ターゲット
目標 3 	すべての人に健康と福祉を	「性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする」
目標 4 	質の高い教育をみんなに	「すべての女児及び男児が、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする」
目標 8 	働きがいも経済成長も	「若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する」
目標 16 	平和と公正をすべての人に	「あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる」

日本のジェンダー平等に関する状況を世界各国と比較する際にもちいられる数値にジェンダー・ギャップ指数（世界経済フォーラムが作成）がある。日本のジェンダー・ギャップ指数は世界 156 か国中 120 位（2021 年）であり、今後、スピード感を備えた推進が必要である。